

タイトル通りの内容を大雑把に解説していきます。

★副砲作成のための連鎖技術

副砲には関連する用語が多く紛らわしい部分でもあるのでさらっと説明。

【本線になる副砲】… 合体、多重折り返し、連鎖尾（例：同時消し形） など

【本線にならない副砲】… いわゆる「潰し」。連鎖数が長い場合そのまま「副砲」。

連鎖数の多さ、または連鎖時間の長さは 副砲 > 潰し > (牽制) の順番。

合体、多重折り返しに関してはまた別途に解説があるので、今回は純粋に副砲を作る技術に焦点を合わせて解説して行けたらと。

◆副砲とは？

副砲とは本来の意味から考えると、連鎖数を多くするための本線とは別の役割を持つ、短い連鎖数の副次的な連鎖であり、本線とは別途のものと考えられることも。

副砲の役割は、相手にその本線を打たせるためのジャブのようなもの。相手の隙に対しダメージを少しずつ蓄積させ、相手のフィールドを荒らす役割があります。上位陣が牽制も何も撃たず本線即発火！ということが無いように、上を目指すならば必須のテクニックです。

◆副砲を作る

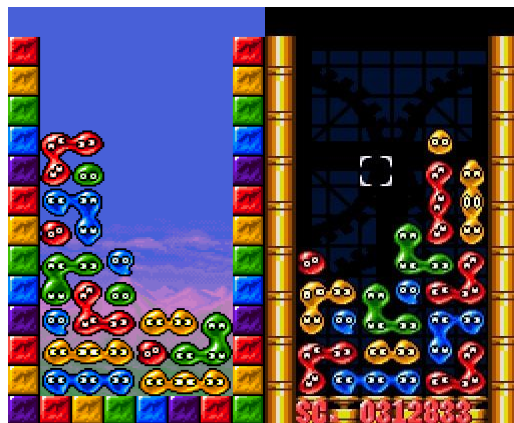
実際の副砲の作り方を図など用いながら説明していきます。

・副砲を連鎖尾に組み込む

左は2ダブと連鎖尾が一つになった形。

右はぐっくる風。2ダブまたは2トリに変化

追いうちにも適している攻める形。

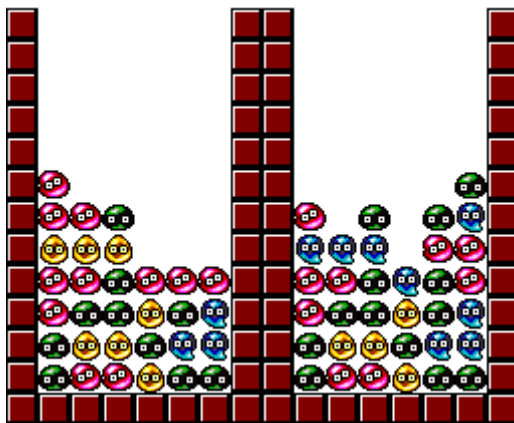


・副砲を短く切る

相手側に明らかな隙があるときの潰し、または対応手としても短時間で収束するものは相手の猶予時間を持たせませんし、こちらも多く時間がとられることはありません。

2連鎖ダブルは「見つける」。追い打ちは予め「見つけておく」。

といった意識が重要。



・保険の役割を持たせる。

緊急発火や相手からの対応手などに利用。相手のフィールド状況によ

って形は変わるため、極力柔軟に組み替えていけるのが理想です。

必要に応じて容易に連結を足せるようになっているのもポイント。

